

THE MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION

いい人・いい音

公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団

第29号

2024年1月4日発行

発行：明治安田クオリティオブライフ文化財団
 編集：専務理事・事務局長 壁谷章可
 住所：〒163-0633
 東京都新宿区西新宿1-25-1
 TEL:03-3349-6194
 FAX:03-3345-6388
<https://www.meijiyasuda-qol-bunka.or.jp>

ゲルン大聖堂で聞いた讚美歌



©Ayane_Shindo

6年前久しぶりにデュッセルドルフに行った時、大学からの友人でデュイブルク交響楽団ヴィオラ奏者の家に泊めて貰いました。奥さんはデュッセルドルフ交響楽団首席ヴィオラ奏者で僕の元同僚。

奥さんも日本人ですがキリスト教に改宗していて、ゲルン大聖堂のミサに行くけど一緒に行くかと聞かれ行くことにしました。ミサは1時間位で、誰でも参加できますが途中で出て行くことは出来ません。ミサにはオーケストラを入れて行われるミサもあります。デュッセルドルフ交響楽団にいた時、そのオーケストラには何回か参加し演奏しましたが、ミサに行って教会の中に座って説教を聞くのは初めてでし

た。説教の途中で讚美歌が歌われます。讚美歌集の番号が出て、それを歌うのですがカントールが演奏するパイプオルガンの即興演奏（それがカッコ良い）から始まり讚美歌に入っていきます。

それを聞いただけで、僕はキリスト教徒ではありませんが、何か神聖な雰囲気を感じます。斜め前に赤ちゃんを抱いたお母さんが讚美歌を歌っていて、赤ちゃんも静かに聴いている。

クラシック音楽の源流は教会音楽にあると言われていますが、その源流の音楽をキリスト教徒の人々は毎週聴いているのだと実感しました。余談ですが、ドイツでは宗教税がありキリスト教徒だと収入の9%位払わなければなりません。デュッセルドルフ交響楽団に受かり、労働ビザを取る為に申請に行ったのですが、申請書に宗教を書くところがありBuddhist(仏教徒)と書くのと取られません。

有名な作曲家は教会の為に沢山の曲を作曲しています。

オペラにもキリスト思想の入った曲もたくさんあります。プッチーニのオペラ「蝶々夫人」にもキリストの話が出て

東京藝術大学名誉教授
 武蔵野音楽大学特任教授

山本正治

(当財団音楽分野選考委員)

きますし、ワーグナーの「パルジファル」はキリスト教の影響を受けた作品です。

デュッセルドルフ交響楽団「Deutsche Oper am Rhein」で8年位演奏していましたが、ほとんどがオペラの演奏でワーグナーの演奏もよくしました。その時にも考えていたのですが、キリスト教徒だとワーグナーを演奏する時、僕と何か違う事を感じて演奏してるのかなど。答えは出ませんが演奏する時、どこか頭の隅でそんな事を考える時があります。

日本の宗教と音楽の関係で言えば、仏教には声明（しょうみょう）や御詠歌など、キリスト教の讚美歌とは違いますが歌があります。藝高、藝大でトロンボーンを専攻していた同級生が、今曹洞宗の住職で御詠歌の師範もしています。御詠歌が僕には演歌に似てる様に聞こえたので、住職に演歌みたいだねと言ったらそうだよと言ってました。色々な地域に異なる宗教があり、それぞれが音楽を持っています。

クラシック音楽を演奏する人は大聖堂の様な教会に行き、座るだけでも演奏に大事な何かを感じる事ができるかも知れません。

「海外音楽研修生費用助成」の
2024年度申込受付を開始

当財団は、1991年6月の設立以来、「クラシック音楽分野における若手音楽家の人材育成」を目的として海外音楽研修や海外音楽コンクール参加のための費用の助成を行ってきました。過去33年間の助成対象者数は、合計218名です。

2024年度においても、「海外音楽研修生費用」の助成希望者を公募いたしますので、助成を希望される方は、主な音楽大学や音楽指導者宛に送付した「申込要領」または当財団のホームページをご覧ください。4月5日（金）までにお申し込み下さい。

助成の趣旨等

1. 助成の趣旨

わが国のクラシック音楽文化の向上のため、国際的音楽家を目指して研鑽中の若手音楽家に対し、海外、特

に欧米への留学に必要な費用の助成を行います。

2. 助成対象

海外の教育機関等に留学し、技術を練磨するとともに、その実体験を通じてさらに研鑽を深めることを志す方。（対象とする専門分野は、声楽・器楽）

- ・ 大学卒業（予定）者および大学院在籍者・修了（予定）者。なお、高等学校卒業（予定）者も可とする。
- ・ 声楽は1991年9月1日以降、器楽は1996年9月1日以降に生まれた方
- ・ 海外留学についての計画と目標が明確である方
- ・ 2024年から2025年12月末までに申込書に記載された教育機関等に入学が可能な方
- ・ 研修目標の達成に必要な語学力を有する方

※ 既に海外に留学中の方も対象になります。

3. 助成対象人員

- ・ 4名程度

4. 助成金額

- ・ 年額200万円
- ・ 助成期間は原則2年

申込書類等

1. 申込書

- ・ 所定用紙による。

2. 推薦書（二通）

- ・ 2名の方の推薦が必要。
- ・ 推薦書には、次の項目を必ず記入のこと。①あて先（当財団名）、②被推薦者（応募者）の氏名、③推薦理由、④作成日（3ヶ月以内）、⑤推薦者本人の署名

3. 映像資料

- ・ 本人の演奏を収録したDVDを提出のこと。（ピアノおよび打楽器について）
- ・ 2023年7月以降に収録された演奏であること。
- ・ また、カメラアングルは固定し、以下に留意すること。

声楽…演奏者の顔と上半身が明確に映る角度

ピアノ…演奏者の顔と手元が明確に映る角度

弦楽器…演奏者の顔と手元、弓を含む楽器全体が明確に映る角度

管楽器…演奏者の顔と手元、楽器全体が明確に映る角度

打楽器…（管楽器に同じ）その他…オルガンはペダル操作も映る角度

映像と音声は同時に収録し、特に音質には留意すること。

映像資料（DVD）は、複数の曲目の場合は、各曲・楽章を別々に分けて収録することは構わないが、収録は同じ会場（場所）かつ同じ日に収録し、DVD1枚にまとめること。演奏曲目の構造に応じて、その内容を申込書Ⅲ「2. 曲目と楽曲構造の内容」に経過時間を含めて必ず記載すること。

日程

1. 申込期限
・ 4月5日（金）必着
・ 書類および資料は簡易書便等（配達確認が可能な方法）による送付を原則とします。
2. 選考日程
・ 第一次選考（書類・録音資料審査）は4月下旬
・ 第二次選考（第一次選考通過者に対する実技および面接）は5月24日（金）
【開催地 東京・新宿】
3. 結果発表
・ 6月上旬予定

選考方法

当財団の選考委員会で厳正に審査の上、助成候補者を選出し、その後、理事会の承認を経て助成対象者が決定されます。

詳細については、「申込要領」または当財団のホームページ
(www.meijiyasuda-gol-bunka.or.jp)を参照下さい。

海外音楽研修生レポート

「言葉の力、音楽の力」

(22年度助成・声楽)

和田 悠花

(留学先・パルマ音楽院
「アツリーゴ・ポイト」)

イタリアに留学を開始してから、あつという間に1年が経ちました。円安は留学開始時からもどんどん進み、物価の上昇、不安定な世界情勢・・・など不安は絶えません。恵まれた環境のもとで音楽の勉強に没頭できる日々には感謝ばかりです。

音楽院は7月から10月まで長い夏休みに入ったため、先日、パドヴァ郊外で開催されたマスタークラスに参加しました。若手歌手とピアニスト、計18人で「ドンジョバンニ」の歌唱と演技

のワークショップを受講し、最後に3回の公演を行うというものです。レッスンはイタリア語がほとんどでしたが、ドイツや韓国、アメリカなど世界各国から集まったメンバーたちだったので、困ったときはそれぞれの参

加者がお互いに通訳しあい、時には6か国語(ー!)が飛び交うこともありました。

日本人参加者は私だけで、言葉の面で苦戦しましたが、「うまく喋れなくても、歌と演技で理解していることを示すんだ!」と集中して参加していたら、他のメンバーたちと心を通わせることができました。年齢、国籍、そして言語が異なるメンバーたちが集まっても、オペラを愛しているという共通点があり、互いをリスペクトして助け合うことで、こんなにも絆が生まれるのか、と感動しました。

9日間という短い間でしたが、濃密な時間を過ごしたメンバーとの別れはとても寂しかったです。そして「いつも助けてくれた彼にもっとお礼を言いたかったなあ」「彼女の歌がとても好きだったな、もっと言葉を尽くして彼女の良いところを伝えたかったなあ」と、言葉の面で後悔がたくさんあ



「マスタークラス最終公演日」

りました。語学は、その国の人々や文化を尊重し理解するために必要なことだと思いを学んでいますが、現地での「もっと感謝の気持ちを伝えたい」という気持ちは勉強の大きなモチベーションになるのだと感じました。

言葉がなくても交流ができた喜びと共に、言葉の面をもっと頑張ろうと思わされる、私にとって大事な機会となりました。

「経験値、上昇中。」

(22年度助成・チェロ)

香月 麗

(留学先・パリ国立高等音楽院)

パリでの留学生活が2年目に入りました。

新しく室内楽のグループを組んだり、学校外のプロジェクトにも積極的に参加してみようと試みています。

パリ国立高等音楽院はクラシック、古楽とジャズの楽器、声楽、作曲、ダンス、音

響学と一昨年夏まで在籍していたローザンヌ高等音楽院のシオン校とは学校の規模も学生の数も比べ物にならないくらい大きく新鮮な毎日で、例えば学校の踊り場でオペラやジャズのコンスर्टが行われていて、思いがけず知らなかった音楽に触れる機会があり、好奇心がそそられます。新しいことに夢中になると、普段のチェロの練習も新しい視点が見つかり練習が面白くなります。

ヨーロッパで生活させていただくことで、音楽や芸術全体がより興味深く思えて、自分の中にたくさん吸収されていくのを感じます。

美術館で絵を見ることもともと好きでしたし、チェロを始めた時から楽譜上で作曲家たちに出会い演奏してきましたが、パリに来てからはピカソやゴッガンが過ごしたアパートを訪ねたり、画家たちが描いた道を歩いたり、ラヴェルや



「ボツケリーニの生誕の地イタリア、ルッカにて。」

フォーレが通っていたウイナレッタ・シンガー夫人のお屋敷でリハーサルをするという貴重な経験をしています。シンガー夫人は彼らのパトロンでもありたくさんの曲を献呈され委嘱した人物なのですが、私も彼女が残したシンガー財団のサポートを受けている演奏会に参加させていただきました。この作曲家たちとのつながりに度々感動し身震いしています。チェコに行きドヴォルザークの弾いていたヴィオラと眼鏡を見た時と同じ感覚に包まれました。

留学という素晴らしい経験をさせていたただいては出来ただけたくさんの音楽に触れ、敏感に吸収していきたいです。

高等音楽院ではエマニュエル・ベルトラン先生のクラスで学んでおり、先生が主催するボーヴェの音楽祭に出演したり、フィルハーモニー・ド・パリの大ホールでの本番を経験しました。幸せな音楽留学生活を送っています。その傍ら、10月から学校ではテロ対策で入り口で楽器ケースやバッグの中身を見せる検査が義務

となりました。その度にどうか、全ての人々が安心して過ごせる時が早くきてほしいと願っています。末筆になりましたが、パリでの留学生生活を叶えてくださった貴財団に心より感謝を申し上げます。

「貴重なご縁に感謝」

(22年度助成・チェロ)

岡本 侑也

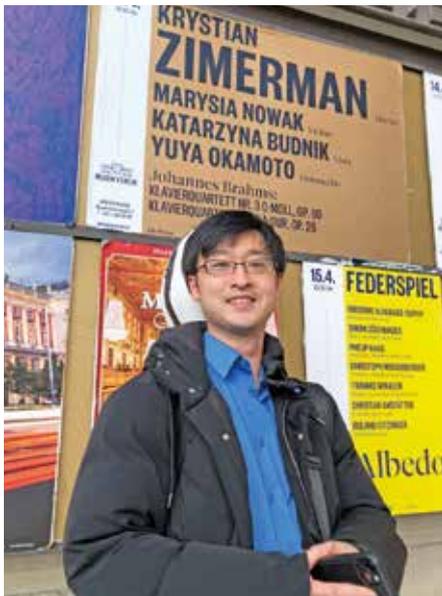
(留学先・ミュンヘン音楽・演劇大学)

2023年も、ヨーロッパで貴重な演奏会の機会をいただきました。春にクリスチャン・ツイメルマン氏との室内楽ツアーや、7月と10月にエベールヌカルテットのチェリストR.Merlin氏の代役として、カルテットのツアーに参加させていただきました。どの本番も、思い出の詰まった体験となったのですが、ロケーションとして特に印象的だったのは、ツイメルマン氏とのウィーン楽友協会公演と、エベールヌカルテットとの初めてのツアー、ロフォーテン(ノルウェー)での音楽祭でした。

ウィーン楽友協会では、荘厳なホールの中でもお客様の様子がとても温かく、舞台上上がった時の鳥肌は今でも忘れられません。舞台の木材が、まさに楽器と一体となって振動しているような感覚があり、独特で唯一無二の音響の中、ツイメルマン氏と共演できた時間は本当に幸せでした。プログラムはブラームスのピ

アノ四重奏曲だったので、生前ブラームス自身もこのホールで自作自演など行ったということ、とても感慨深かったです。

7月にエベールヌカルテットとのツアーで伺ったロフォーテンは、息を呑むほど美しい場所、一週間の滞在もあつという間に過ぎてしまいました。北欧は白夜が続いている時期で、海を越えればもうそこは北極なのですが、本当に地球の果てまで来てしまったような感覚がありました。海面の波はとても静かで、神秘的な雰囲気を醸し出して



「ウィーン楽友協会にて、演奏会のポスターと共に」

いました。

実は本格的に弦楽四重奏に取り組むのはこの時が初めてで、全く知らない世界にいきなり飛び込むような感覚で、無我夢中に勉強しました。代役として、世界最高峰のカルテットのなかで弾かせていただくのは大変責任が大きいものですが、カルテットメンバーの方との親交も含め、今となっては思い切った決断をして本当に良かったなと思います。

人生どこでどういうご縁に巡り合うか、本当に不思議なものです。ただただこれからも自分を磨いていこう、と心に誓いました。

「人とのご縁に恵まれて」

(22年度助成・ピアノ)

松村 由慶

(留学先・ザルツブルグ・モーツァルテウム大学)

ザルツブルクでの留学生活もあつという間に一年以



「昨年4月にドイツのランゲンゲンにて受講したマスタークラスでのコンサート」

上が過ぎました。私にとつての初めての留学、また一人暮らしということ、最初は戸惑うこともたくさんありました。一番驚いたのは宅配便の再配達がないという点。受け取ることができなかつたら最寄りの郵便局に回収されるので、自分で取りに行かなければいけません。そんな事とは知

らずに日本から楽譜や洋服など30kg程の大きな荷物を送っていて、配達された時間は自宅にいなかったため不在通知が入ってしまいました。当時同僚アパートに住んでいた友人に助けももらい、無事に最寄りの郵便局から運ぶことができました。

また、ザルツブルクでは私は普段自転車で行動していますが、その自転車を購入したご縁から、自転車屋さんご夫妻と親しくなりました。彼らからザルツブルクの歴史や文化を教えてくださいたり、美しい湖に連れて行ってもらったり、ハイキングに連れて行ってもらったりしています。困った時には必ず助けてくれる、私にとって第二の両親のような存在です。そして、学校に通っているだけだとなかなか現地の人と関わる機会がないため、すごく貴重な経験だと感じています。

もちろん音楽の面でも

多くの事を学んでいます。ジャック・ルヴィエ先生やアシスタントの先生からは作曲家ごとの楽譜の読み込み方やホールでの音の響かせ方を徹底的に教わっています。こちらに来てから言語と音楽の結び付きをより一層感じるようになりました。ドイツ語を話すようになってからドイツ音楽の捉え方が自分の中で変わっていったり、フランス音楽を弾く時は先生同士の話すフランス語を思い出すと流れがうまくいったり、とても興味深いと思います。室内楽でもメンバーに恵まれ、ヨーロッパの人々のオープンマインドを自分の演奏にも反映できるように勉強中です。今後支えてくださる方々に感謝を忘れず、この貴重な環境から多くの事を吸収し、音楽家としてさらに成長できるように精進してまいります。

日本音楽コンクール

明治安田賞受賞者(作曲部門)

日本音楽コンクールの作曲部門は、作曲家の方々がデビューの足掛かりとしてきた重要な部門ですが、当財団は若手作曲家の励みとなるよう同部門の最優秀者に対し「明治安田賞」(賞金50万円)を寄託し、次の方々を受賞されています。

| | |
|-------------|----------|
| 91年度 (第60回) | 山洞 智 |
| 92年度 (第61回) | 伊佐治 直 |
| 93年度 (第62回) | 藤満 健 |
| 94年度 (第63回) | 原田 敬子 |
| 95年度 (第64回) | 伊佐治 直 |
| 96年度 (第65回) | 望月 京 |
| 97年度 (第66回) | 若林 千春 |
| 98年度 (第67回) | なかにし あかね |
| 99年度 (第68回) | 大場 陽子 |
| 00年度 (第69回) | 三浦 則子 |
| 01年度 (第70回) | 小野 貴史 |
| 02年度 (第71回) | 名倉 明子 |
| 03年度 (第72回) | 朴 銀荷 |
| 04年度 (第73回) | 宮澤 一人 |
| 05年度 (第74回) | 横島 浩 |
| 06年度 (第75回) | 篠田 昌伸 |
| 07年度 (第76回) | 山根明季子 |
| 08年度 (第77回) | 稲森安太己 |
| 09年度 (第78回) | 江原 修 |
| 10年度 (第79回) | 中辻小百合 |
| 11年度 (第80回) | 悠太 |
| 12年度 (第81回) | 魚路 恭子 |
| 13年度 (第82回) | 平川 加恵 |
| 14年度 (第83回) | 網守 奨平 |
| 15年度 (第84回) | 杉本 友樹 |
| 16年度 (第85回) | 東 俊介 |
| 17年度 (第86回) | 白岩 優拓 |
| 18年度 (第87回) | 久保 哲朗 |
| 19年度 (第88回) | 井上 渚 |
| 20年度 (第89回) | 松本真結子 |
| 21年度 (第90回) | 福丸 祐子 |
| 22年度 (第91回) | 石川 光詩 |
| 23年度 (第92回) | 丹羽 健人 |
| | 前川 菜月 |



助成対象者の皆さんから寄せられたお便りを助成年度、専攻部門の順に掲載しました。

1991年度助成

江澤 聖子 (ピアノ)

ベルリン留学から帰国して24年が過ぎました。貴財団のお力添えがあつてこそ、と心より感謝と御礼を申し上げます。今年度より、国立音楽大学附属図書館長を拝命し、学生の日々の学びの充実と所蔵貴重資料の世界への発信を模索しています。今年、明治・大正時代に一世を風靡したセノオ楽譜の展示と、演奏会の企画を考えています。日本人の持つ繊細な情緒を意識し、日本人であることの誇りを持ち続けたいと思います。

鈴木 優子 (パーカッション)

昨年2月に、フランクフルト放送交響楽団の演奏に参加した際には、演奏者一人ひとりの表現力の豊かさと音量の大きさに改めて感じ入りまし

た。ふだん指導している音楽教室では、年に3回以上の発表の機会を提供し、発表する喜びを多く感じてもらうように努めています。今後も、愛情を持って丁寧な生徒に接し、多くの能力を持った人材を育成したいと考えております。

1992年度助成

田中 晶子 (ヴァイオリン)

ブラームス「雨の歌」シューマンの1番のソナタ他を、スポンサーのご依頼で録音しました。演奏や音は常に進化して時と共に変容していくものですが、今の自分の思いの全てを音に残せたことに、心から感謝しています。CDは春には発売になる予定です。また、ポーランドに招かれ、オーケストラとの共演や、国際コンクールの審査にも携わりました。

梅津 千恵子 (パーカッション)

新年おめでとうございませう。昨年11月1日に、自主企画30周年記念公演を東京文化会館で開催しました。打楽器音楽での精神内面表現への挑戦、音を持つ明日へのエネルギーなどを大きな目標とし

て、今回は今世界が直面している大きな問題の数々を、想い(祈・命・歎)のテーマの流れで委嘱作品の数々を演奏しました。貴財団に後援をいただき、背中を押していただきましたことに御礼申し上げます。今年も、世界の平和と安らぎを祈り、自らの音楽を精進して参ります。

1993年度助成

小林 幸子 (ヴァイオリン)

齋藤 千尋 (チェロ)

(注：両氏はロータス・カルテットとして演奏活動中・シユツトガルト在)

ロータスカルテットとして新メンバーと始めてから2年目を迎え、今年、3月に日本で結成30周年記念のコンサートツアーをさせていただき、ドイツでは、ドイツ作曲家の数曲を録音する機会がありました。来年にも、南ドイツの数カ所、ハイドンやメンデルスゾーン、シューベルトといったプログラムのコンサートに加えて、Jörg Widmannの弦楽四重奏曲を弾かせていただくコンサートもあります。今を生きる作曲家とご一緒できることは、いつも楽しみます。

1994年度助成

樋口 あゆ子 (ピアノ)

私の音楽活動は、ピアノニストだけでなく、総音楽監督・実行委員長として、昨年5月にコロナが5類になったことにより、国際交流の音楽活動が復活でき、日越の音楽学生育成と両国の国際友好促進を目的とした、第4回日本ベトナムピアノフェスティバル日本公演を開催いたしました。2024年度は、ベトナム公演を開催いたします。私にとつて、ベトナムと日本との音楽交流活動は、20年目となりました。これからも、発展が著しいアジアの学生達とともに、音楽活動を行っていくべしと思っております。また、国内のコンサート活動と並行して行っている私のクラシックラジオ音楽番組「FM yokohama ピアノワイナリー響きのクラシック」も今年1月で長寿番組として13年、650回放送を迎えます。一昨年から、更に新しい試みとして、2ヶ月ごと「JPT Classicsよりベルリン・クラシックスの世界の音楽家をご紹介するコーナー」を設け、巨匠ピアニスト・指揮者のエッシェンバツハさん、ゲスト出演され、ウイーンフィルのファゴット首席奏者

や、ドレスデンフィルのオーボエ首席奏者など、様々な方々がゲスト出演をしてくださっています。ぜひ、みなさんよろしければお聴き下さい。また、我こそは！という音楽家の皆さんも、番組にゲスト出演に来て下さいね！私の音楽活動は <http://ayuko-higuchi.music.coocan.jp/> でチェックしてください。

マリア・アヤ・アシユリー (ヴァイオリン・ボン在)

ドイツではコロナと、過去二年間のコロナ政策に関してのコメントがほとんど聞かれなくなり、今は、もっぱらウクライナと中東での戦争に関心が移っています。経済が落ち込み、社会不安が増し、人々がそれだからこそ、芸術や心の慰めを求めているような気がします。身近な人や仕事を失っても、生きていく力の源に少しはなるような音楽を奏でていきたいと思っております。

横山 奈加子 (ヴァイオリン)

今年、ピアノの佐々木京子氏とブラームスのヴァイオリンソナタ全曲をリリースいたしました。かねてから録音したいと願っていた曲ですので、ぜひお聴きいただけまし

たら幸いです。引き続き、後進の指導にも力を注ぎたいと思っております。

神田 寛明
(フルート)

おかげさまでN響在籍30年となりました。ここまで健康で活動を続けることができたのも、多くの皆様のご指導ご鞭撻のおかげと感謝の念に堪えません。

あいかかわらず演奏活動の中心はオーケストラですが、昨年は協奏曲のソリストを務める機会を多くいただきました。珍しい吹奏楽との協奏曲(原田慶太楼氏指揮)や、桐朋学園大学の学生達との共演、そしてトン・コープマン氏とN響でモーツァルトの協奏曲を4回演奏できたことは、大きな喜びでした。名匠から学び、仲間から鼓舞されたこと、どれも得がたい経験でした。まだまだ勉強の途中だなど、あらためて感じます。



1995年度助成

石橋 幸子

(ヴァイオリン・チェリッヒ在)
 昨年は、細川俊夫氏の室内楽作品「遠くから来た友達」を、スイスで初演しました(トーンハレ・チューリッヒ大ホール)。そして、コンサート終了後には、細川先生特有の美しさと影のある日本の旋律から醸し出す悲しみの和声に、お客様から「琴線に触れる音楽を聴けた」と大変心に残るお言葉をたくさんいただきました。海外で母国の作曲家の作品を演奏させていただけることは、大変貴重で喜ばしいことです。今後も、日本人作曲家の作品を、よりコンサートで取り上げていきたいと思えます。

大森 潤子

(ヴァイオリン)
 夏に東京で、私にとっては感動の二つの再会がありました。まず、パリ留学中に参加したコンクールの際に、1ヶ月間ホームステイをさせていただいたブリュッセルのご家族と、20年振りに会うことができました。出場者プログラムに掲載されている私の誕生日に、毎年メッセージを下さるファミリーですが、会ってみると私の全く覚えていない

緊張の日々の出来事を色々話してくれ、思い出話に時が過ぎるのはあつという間でした。それから、高校時代からの大切な友人に、やはり20年振りに会えました。私たちが留学していた頃は、国際間の連絡手段はFAXや手紙が主で電話はまれに：でしたが、今や、無料でビデオ通話もできます。何と便利になったことか：と先日、スイスに暮らす彼女と語り合い、励まし合ったところでした。学生時代に頑張っていた自分の姿を覚えていて、ずっと気に掛けて下さる方々がいるのは何と幸せなことかと、ありがたさを感じながら活動する日々です。

志茂 美都世

(ヴァイオリン)
 コロナ禍が終息していなくても、社会全体が緊張から解放され普通に生活できるようになりました。海外への渡航や滞在はまだ厳しい状況が残りますが、以前よりは行きやすくなったと感じます。コロナによる経済の影響が大きいこともですが、オンライン動画配信の普及、思考力が求められる長文とは逆の短文のコミュニケーション、人間の知恵による技術的進化がもたらすものは、クラシック音楽の

伝統を手間暇かけて継承していく価値観とは、真逆のことだと感じるこの頃です。それは今から明るい未来の音楽だと思えますが、私が留学していた時代に感銘を受けたような、音楽の伝統&威厳が失われていることでもあり、寂しいです。今年も、さらに充実した良い一年にしたいと思います。頑張ります。

神代 修

(トランペット)
 ウィーン留学時代の親しい仲間たち「ムノツツイル・ブラス」が、日本にやってきました。今や、世界で最も有名なグループです。演奏会では、最前列にいる私を見つめるや、ステージから手を伸ばさる握手。留学を通じて素晴らしい仲間ができ、今も自分にとって大切な活力となっていること、改めて財団には感謝の念しかありません。

1996年度助成

磯 絵里子

(ヴァイオリン)
 昨年は、「椿三重奏団」での協奏曲シリーズで、中部フィルハーモニー管弦楽団と大好きなブルッフの協奏曲を弾かせていただきました。椿三重奏団では、9月に2nd、CD

「偉大な芸術家の思い出に」をリリース。4月6日に、王子ホールにてCD発売記念コンサートを開催予定の他、各地での演奏会が予定されています。2023年は、他にギターリスト河野智美さんとのコンサート、アウトリーチ、宮崎国際音楽祭等の活動の他、オーケストラへの客演コンサートマスターとしての演奏の機会も増えました。FMヨコハマの「磯 絵里子のSEASIDE CLASSIC」は、14年目に入り700回を超え、各地でお聞きくださるリスナーさんからの反応もあり、コンサートに足を運んでくださる方も増えて嬉しい限りです。これからも、クラシックの話題を発信して1000回を目指したいです。貴財団の助成を得て留学中の皆様、今しか得られないさまざまな刺激を大切に、音楽の力を未来に繋げて下さることを期待しています。

その他の演奏活動は左記HPで公開しております。
<https://erikoiso.jp/>

安藤 裕子

(ヴィオラ)
 30年近い年月、ヴィオラと共に歩んでこられたことを、感慨深く思っています。国際コンクールにチャレンジする

生徒さんと並走しながら、かつてご支援をいただき自らも経験してきたことの意味を、改めて感じることでできた一年でした。

世界の音楽事情にも目を向け、いろいろな演奏会にも足を運び刺激をうけながら、自分のおかれた環境において、実現しうる活動を模索しています。最近では、身体を使い方や人間学にも興味を広げて、演奏や指導に繋がられるように、今後も研究を続けていきたいと思っています。

所属するオーケストラメンバーと積み重ねてきたベートーヴェン弦楽四重奏全曲演奏会も、終盤となってきました。しっかりと準備をして取り組めるメンバーに恵まれたことに感謝しつつ、毎回わじわと増えてきたサポーターの皆さまの期待に違わぬ演奏をめざし、頑張りたいと思います。

1997年度助成

泉 良平 (声楽)

2023年は、藤原歌劇団新春公演のトスカ、真夏のグランドオペラフェスティバル「Lesbians」、藤原歌劇団蝶々夫人に出演しました。その他東京、京都の二つのオペ

レッタこうもりのプロジェクトに参加。2024年新春、日本オペラ協会ニュープロダクション、オペラニッグルに民吉役にて出演予定。倉本聰先生の戯曲ニッグルが初オペラ化され、作曲は渡辺俊幸先生。北海道を舞台にした自然と人間の共存の姿が描かれます。併せて、洗足学園音楽大学客員教授として後進の指導を続けております。

山崎 貴子 (ヴァイオリン)

漸くコロナ禍が開けたというのに、世界を取り巻く不安定で悲劇的な状況は加速する一方で、これから留学したり国際的に活躍しようとする若い方々には、私が留学していた頃よりずっと覚悟が求められるのではないかと想像します。それでも、オンラインでのやり取りが世界の距離を縮めた一方、やはり直に、その場でないと得られないものがあることは確かです。明治安田クオリティオブライフ文化財団の貴重な助成を足掛かりに、皆さんの豊かで実り多い留学生活が実現することをお祈りいたします。

私自身の最近の活動として、東京藝術大学での指導の他、国立音楽大学や夏の「熊本室内楽アカデミー」等で

の後進の指導。紀尾井ホール室内管弦楽団員としての活動の他、アーニマ四重奏団でバルトーク、メンデルスゾーン、シューマン、ブラームスに続きベートーヴェンのSQ全曲演奏会を完遂したところで、引き続き、家庭と仕事とのバランスに奮闘しながら精進したいと思っています。

1998年度助成

豊嶋 起久子 (声楽)

昭和22年に作られた「ひろしま平和の歌」を、被爆ピアノと共に広島国際会議場で演奏しました。1945年8月6日に想いを寄せつつ手を合わせ、作品の意味を初めて知りました。平和記念公園には、慰霊碑の先に厳島/弥山から1200年消えずの炎が灯され、その向こうにドームが見えます。毛利家由来のこの場所にかつては先祖も暮らし、現在は、世界の恒久平和を念願しています。目に見えない世界、魂は浮遊し、人間はいのちを奏で続けるのだと思いました。

財団のご支援をいただき初めて海外コンクールに挑戦し

島田 真千子 (ヴァイオリン)

てから、25年という月日が経ちました。本年は、ソロコンサートマスターとして所属しているセントラル愛知交響楽団が創立40周年を迎え、さらなる発展を志しております。

また、水戸室内管弦楽団や、リサイタル、室内楽等の演奏活動に加えて、京都堀川音楽高校と愛知県立芸術大学、また来年度からは名古屋音楽大学でもヴァイオリンを教えることになり、さらに教育活動には心を込めて取り組んで行きたいと思っております。若い未来の音楽家と共に切磋琢磨する時間は貴重で、私自身が多くのお支えをいただき学生時代に学んだことを伝えつつ、今の世界の動きにも寄り添っていかなくては、と思います。

留学やコンクール等に参加して出会う師や仲間が存在、自然の偉大さから得る感覚や、様々な国の文化や歴史から学ぶことは、将来の音楽に直結し、今後の活動の土台になります。これから留学をされる皆様にとっても、失敗や悩みごとや経験する全てが実りの糧となりますように。2024年が皆様にとりまして良い一年になりますように(祈)。

1999年度助成

田邊 織恵 (声楽)

コンサートの会場、授業、街中でもやっと、沢山の笑顔や表情を見ながら過ごせるようになり嬉しい限りです。また海外に行きたい思いも募りますが、留学時代共に過ごした仲間、先生達との日々は今でも度々鮮明に思い出します。もう20年以上も前のことなんだと驚くと同時に、いま自分があるその原点を築く貴重な機会を与えてくださった貴財団にはいつも感謝しております。

大谷 玲子 (ヴァイオリン)

2023年夏は、ポーランド・プワヴィでの音楽祭に招聘され、10日間マスタークラスとリサイタルを行いました。日本の学生達は、ここ数年のコロナ禍等の影響もあり皆初海外で、大変刺激を受けた様子でした。私にとっても、欧米の生徒達を教えることは興味深く、また久しぶりに会うヨーロッパの音楽家達と楽しい時間を過ごしました。



2000年度助成

松原 広美 (声楽)

私が所属します藤原歌劇団は、今年で創立90周年を迎えます。その記念シーズンである来年、1月東京・2月愛知と、ヴェルディ作曲オペラ『ファルスタッフ』クイックリー役で、出演を控えております。クイックリー役は、イタリア留学中に勉強してあったものの、今まで出演する機会に恵まれずメゾソプラノにとつて、重要な役であるため、今回の出演が決まり大変光栄に思っております。

また今年も、私にとって、プロデビュー20周年の年にあたります。同じく20周年を迎える、ピアニストである主人・松原聡とともに、秋に地元・群馬と東京で、記念リサイタルを開催すべく、ただいま計画中です。

日々各種SNSを更新中ですので、随時情報をご覧いただければ、幸いです。

上野 真理 (ヴァイオリン)

昨年は、一時帰国した友人達との公演も無事に終了しました。また、公共ホール音楽活性化事業の一環で岩手県に滞在し、国登録有形文化財の

萬代館で演奏。ニューシネマパラダイスさながらの古い映画機もある所でのコンサートは、昔から受け継がれたバトンを次の世代に渡す場所に居合わせたような気持ちになり、感無量でした。アートギャラリーバンみやぎ2023では、多賀城創建1300年記念事業の能/オペラで、再び無伴奏作品含め参加しております。

シユレイファー(遠藤)三子

(ハープ・ガラス在)

今シーズンも昨年に引き続き、コロナの影響も薄れ、室内楽やオーケストラ、コンチェルト等の演奏に恵まれました。また、生徒の指導にも尽力しております。アメリカでは、大学受験の際、学業の成績以外に、その学生がどれだけの多くの経験を積んで来たかの多様性が問われます。アカデミックな勉強とハープを両立してきた生徒は、ハープの勉強を通して身につけたことを示すべく、演奏のビデオを受験申し込みの際に提出し、自己アピールに役立てます。また専攻が音楽分野でなくとも、大学のオーケストラに参加出来たり、それによって奨学金が得られたり、随分、日本の大学受験とは違い、アメリカの懐の深さを感じます。

これからも、生徒に活力をもらいながら、音楽の持つ力を信じ進んで参りたいと思っております。本年が皆様にとって良い年となりますようにお祈り申し上げます。



2001年度助成

三上 亮 (ヴァイオリン)

東京藝術大学で非常勤講師として教え始めて、今年で6年目になります。多少の入れ替わりはありますが、今年度は10人の学生を受け持っています。高校生の時から教えている生徒も気付けば20歳を過ぎ、当時を思い返すと人間も演奏も大分成長したなあ、と大変感慨深い気持ちになります。自分が学生だった時も、きつとこのような気持ちで見守っていたのだと思う、改めて感謝の気持ちで一杯になります。

大石 将紀 (サクソフォン)

今年も、世界的に活躍される作曲家、細川俊夫先生のサクソフォン作品集のCDを発売

表します。コロナ初年の2020年を除いて2016年より毎年、福井県越前市で行われる武生国際音楽祭に出演しています。21年、22年、23年と3回にわたって素晴らしい共演者の方々と音楽祭でコッコツと録音してきました。「音によるカリグラフィ(書)」である細川先生の音楽を皆様に聴いていただければ幸いです。

2002年度助成

サヤ・ハシノ (ピアノ・ジュネーブ在)

ジュネーブに住んで22年目を迎え、ピアニストおよびオルガニストとして、スイス・ロマンダ管弦楽団、チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団など、素晴らしいオーケストラと共演の機会に恵まれ、ジュネーブ・サンジェルマン教会の正式オルガニストの職も務めています。2022年には、オルガンソロ『Vor deinen Thron』の全曲パツハのCDをSolo Musicaからリリースさせていただきました。2024年は、私にとってデビュー30周年の記念すべき年であり、日本とスイスの国交樹立160周年の記念イヤーという特別な年に、2月29日に東京銀座王子ホール

で、ピアノリサイタルを開催させて頂いた運びとなりました。日本でのソロリサイタルとしては、20年以上ぶりのものとなります。詳細については、以下のリンクからご覧いただけます：<https://sayane/saya-hashino-tokyo-piano-recital/>

今後とも、音楽と文化の分野での活動に情熱を傾け、新たな成果をお届けできるように精進してまいります。皆様とお会いできることを楽しみにしております。改めて、ご支援とご信任に深く感謝申し上げます。

2003年度助成

市原 愛 (声楽)

コロナ禍を経て、4年ぶりに海外での公演に出演が叶いました。それも、ニューヨークのカネギーホール、ロンドンのロイヤル・アルバート・ホール、ロサンゼルス・ドルビーシアターという夢のような会場ばかりのワールドツアー。演奏家が、己を信じ目の前の事態に集中し突き進むことは非常に勇気のいることですが、努力は必ず報われるのだと、改めて教えられた気がしています。

2004年度助成

富平 安希子 (声楽)

去年は、初のリサイタルを開催し、実際に経験することによってしかり得ない多くのことを学びました。本年1月は、東京二期会『椿姫』題名役を富山と鳥取で、2月は、東京都交響楽団様とインバル氏の指揮でバーンスタイン『カデイツシュ』、4月は、東京・春・音楽祭にて『ニーベルングの指輪』ガラ・コンサート、10月には、東京二期会『影のない女』皇后役、等で出演を予定しております。リサイタルもライブワークとして、定期的に取り組んで参りたいと思っております。より良い演奏を出来るよう、楽器としての自分の心身と向き合い、周りの方への感謝の気持ち、そして演奏できる幸運を忘れず、これからもますます精進いたします。

2005年度助成

白木 あい (声楽)

夏、新国立劇場の「高校生のためのオペラ鑑賞教室」で、ボエームのムゼッタを三公演歌わせていただきました。拍手や休憩のタイミングも分

らない初々しい高校生達の前で歌う公演はとても興味深くて、中でも、盲学校や特別支援学校が多数参加して下さいましたことには殊更感銘を受けていました。公演中は寝ている人も多くいると思っておりますが、場内モニターに映る学生たちはみんな、しっかりと目を開いて真剣に聴いてくれていました。カーテンコールでも、出演者に対し歓声をあげたり、指笛を鳴らして盛り上げてくれる学生もいて、何だかとても胸が熱くなりました。来場していた一般のお客様は、学生達が休憩中に口ビーで感想を言い合っている光景を何度も見たそうです。公演を支えて下さっている企業のご支援やご寄付に心から感謝申し上げますと共に、この公演がきっかけとなり、オペラやクラシックに興味を持ってくれる人がいたら心から嬉しく思います。

遠藤 真理 (チェロ)

去年は、オーケストラの活動だけでなく、リサイタル、室内楽も積極的に活動して参りました。読響では、アイズラー作曲「ドイツ交響曲」の日本初演があり、大編成の合唱とソリストが当時の情勢に對峙する気持ちを直に綴った

曲で、音楽を通して伝えられる力を改めて実感した演奏になりました。また、第92回日本音楽コンクールの審査員を初めて務めることになり、若い人達の活躍を目の当たりにし、とても刺激になりました。

横坂 源 (チェロ)

昨年夏は、ドイツでの音楽祭にて、エルガーのコンチェルト、新曲の初演に携わらせていただきました。日中の陽射しの強さに驚きましたが、乾燥した空気、残響の多い教会での響きは美しく、留学していた頃を懐かしく思い出しました。4年ぶりの海外で目、耳にするものが新鮮に写りましたが、同時に意識していたつもりでも抜け落ちてしまった感覚が多くあることに気づかされ、定期的に外の世界に触れることの大切さを痛感しました。今年も新しい出会いに感謝し、精進して参りたいと思います。



2006年度助成

江水 妙子 (声楽)

去年は、『カヴァレリア・ルステイカーナ』のサントゥツァとヴェルディの『オテッロ』のデズデーモナを歌う機会がありました。今年の春に、ヴェルディの『仮面舞踏会』の『アメリカを歌う』予定です。声楽の素晴らしさを、少しでも多くの方々に伝えたいと思っております。

佐藤 卓史 (ピアノ)

デビュー20周年となった2023年、新たな挑戦としてYouTubeに毎日、演奏動画を投稿することにしました。ピアノ弾きにはおなじみの『全音ピアノピース』の一覧表のNo.1から、順番に1曲ずつ弾いていくという企画です。もともと、ピアノ用の小品のレパートリーには興味を持っていましたが、苦勞しながらも楽しく取り組むことができました。21年目からは、これまでの経験を踏まえ、音楽家としてまた違った次元に向かっているよう頑張りたいと思っております。

鈴木 真貴子 (ピアノ)

去年は、私の研究テーマでもあり、ライブワークとしてF. プーランクの没後60年に寄せて、名古屋と東京でリサイタルを開催させていただきました。また、ピアノ作品アルバムVol.2を10月にリリースさせて頂いた。引き続きVol.3のレコーディングに向けて準備を始めたところです。留学時代の恩師たちがそうであったように、後進の指導にも演奏活動にも、より一層磨きがかけられるよう精進してまいります。

2007年度助成

中村 恵理 (声楽・ミュンヘン在)

2023年は、特に欧州での出演が重なり、コロナ禍の後の反動のような移動の多い年でした。今年、新国立劇場『椿姫』を始め、日本でも歌わせていただく予定です。数年前から東京音楽大学等、不定期でレッスンを担当していますが、なかなか伺えず申し訳ないながらも、海外の現状、生きた情報をお届けしながら、若い音楽家達と共に成長できればと願っています。

上江 隼人 (声楽)

コロナ禍を抜け、徐々に演奏会が増えている感じがします。海外への移動も可能になり、そろそろイタリアの風を感じに行きたいと考えています。日々、クラシックの素晴らしさを伝える方法を模索しています。2024年2月には、国立劇場での「ドン・パスクワレ」のマラテスタ役での出演予定です。

2008年度助成

クリスチン・木美・ウイットマー

(声楽・オランダ在)

何度となく演奏してきた曲でも、共に演奏する人達や人生のステージの変化に伴って毎回必ず新たな発見があるのが、音楽をやっている醍醐味の一つではないでしょうか。来シーズンは、マルク・パントウス演出のJ.S.バッハ「マタイ受難曲」ツァーが予定されています。演出と言っても、オペラのように衣装を着て登場人物の役を演じるわけではありません。基盤となるコンセプトは、「日常」。出演者は全員、歌手もオーケストラも指揮者も、私服で出演します。そして、合唱とソリストによる極ミニマルの動作を交えて、冒頭の壮大な合唱曲

から有名なアリア、大衆のコーラルへと連ねていきます。日常的なシーンで観て聴くバッハ「マタイ受難曲」は、友情、疑念、裏切り、後悔、愛への感動といった諸々の感情が、時を超えた人類共通のものとして聴衆に届き、受難曲のストーリーが実に身近なものに感じられたとのこと。2022年と2023年の公演の大反響を得て再上演される2024年のツァーに、今回私も参加できることになりとても幸いに思います。オペラとして書かれたわけではなくともドラマ溢れるバッハのマタイ受難曲なので、演出付きで上演することで新たな次元が加わることに疑いありませんが、自分のソロ曲に向き合う中で今回はどの様な新発見があり、どんな一面が開かれるのか、とても楽しみです。

塚越 慎子 (マリンバ)

「カンタービレ」歌うように「をテーマにリリースした、私のデビュー15周年記念アルバム「Cantabile」がレコード芸術誌において特選盤に選出されました。

マリンバの鍵盤を叩いて、いるにもかかわらず、音が実に滑らかにつながり、音楽が横に流れていく。単音で

音を並べても、それらが美しく自然なフレーズを生み出していることが素晴らしく、旋律だけでなく和声の表現に対する非凡さも作品を演奏する際の「歌」の表現に生かされている。

と、私が常に心がけていた歌うことへの評価をいただき、大変うれしく思っております。今年も国内外でコンサートが予定されておりながら演奏活動に邁進してまいります。

2009年度助成

重島 清香 (声楽・ワイマール在)

最近、友人のお弟子さんがドイツに来る機会が増え、自分よりも一回り以上年の離れた若い方と知り合えることが多くなりました。ドイツに初めて来たあの頃の自分と同じで、私にもこんなキャピキャピした時代があったのかと思うと、懐かしくもなると同時に、月日の流れの早さを恐ろしく感じてしまいました。しかしエネルギーいっぱい包まれた若いパワーというものはなんとも眩しく、忘れかけていたことを思い出させてくれる、とても有り難き機会に感謝しております。

三浦 文彰 (ヴァイオリン)

おかげさまで演奏活動15周年を迎えられますこと、心より感謝申し上げます。今年も海外公演に加え、サントリールホールでの清水和音さんとのベートーヴェンソナタ全曲コンサートや7年目のARKクラシックスと盛りだくさんな年になりそうです。皆様にとって素晴らしい1年になりますように！

金子 平 (クラリネット)

読響に入ってから10年が経ち、中堅と言ってもいい年齢になりました。これまでは、舞台上上がった時は自分のために、自分が楽しいということが中心にあつたのですが、最近はお客様に聴いてもらって自然と一緒に楽しむことが出来たらと思うようになりました。今年、自主公演も含めて、ソロリサイタルにも積極的に挑戦していきたいと思っております。

2010年度助成

酒井 有彩 (ピアノ)

昨年は、セカンド・アルバム【憧憬/ Sehnsucht nach Leipzig】をリリースいたしました。

した。今回のアルバムは、偉大な作曲家たちの才能がひしめき合っていた19世紀のドイツ・ライプツィヒをテーマに収録いたしました。本年も、一つ一つの舞台を大切に精進して参ります。

2011年度助成

門間 信樹 (声楽)

助成を受けてから10年以上の月日が経ちまして、先日ヨーロッパはブダペストに引越してきました。オペラ歌手としての新たなステップを模索中です。ヨーロッパは、これまで住んでいたアメリカとまた違った趣で、芸術文化が市民生活に深く根付いた地です。これからブダペストに渡航を検討されている方は、是非ご一報ください。

永井 基慎 (ピアノ・パリ在)

パリ音楽院にて、伴奏助手として勤務を始めて2年目となります。そんな中、昨秋の休みを利用してノルウェーとドイツを旅しました。ノルウェーでは、ソグネフイヨルドの雄大な自然を満喫し、ベルゲンのグリーグの家やオスロ国立美術館でムンクの作品を見ることができたほか、ド

イツでは、BPOを聴いたりベルリン芸大にいる親友との再会、ベルリンの旧国立美術館やライプツィヒのメンデルスゾーンやバッハ、シューマンの家を訪問したりと充実した旅となりました。また機会を見つけてヨーロッパを旅したいと思っています。

2012年度助成

増田 桃香

(ピアノ)

留学を終え日本に戻ってから、気づけばかなりの年数が経ちました。演奏のスタイルは、学生時代に比べ変化している部分とそうでない部分があると感じています。また、指導者として、自身の目指す場所や役割などについて、より深く考えるようになってまいりました。やることはただひとつ、今後も学生時代と変わらず、常に進歩していきたいと思っています。

松本 絃佳

(ヴァイオリン)

2023年は、湘南エールアンサンブルと共に、モーツァルト作曲シンフォニアコンチェルトンテソロを演奏、協力アーティストとして出演している一般社団法人 愉音 <https://www.yuon.net/> の

「Let's come together」コンサートシリーズ」出演、藤沢・遊行寺本堂、鎌倉・円覚寺如意庵をはじめとする関東圏4つのお寺での「TERAコンサート」出演、オーストリア・ウィーンにて計7回のリサイタル、新しく結成したSTAR QUARTET (1st Vn: 松本絃佳 2nd Vn: 近藤 諒・塗矢 真弥 Va: 梯 孝則・松実健太 Vc: ドミトリー・フェイギン) として、話題のCandlelight Concert by feverに計17回出演と、盛沢山な一年でした。2023年7月まで、イタリア・クレモナの名門Stauffer Academy主催Concertmaster ArtistDiploma生(受講費免除)として毎月5日間クレモナに滞在し、ベルリンフィルやウィーンフィルをはじめとする世界一流のコンサートマスターからアドバイスをいただくことのできる機会をいただきました。8月には、チヨウ・リヤン・リンさん創設の台北音楽祭に参加(滞在費・参加費用全額免除生)、2週間の間、台湾全土を巡ってのツアーで演奏し貴重な経験をしました。そして、アメリカを拠点として活動している演奏家との交流を通じて、今後、アメリカでの演奏活動もしていきたいという目標を得ました。

2024年は、日本での演奏活動を行いながら、海外での演奏活動の場を持てるように、頑張ってみています。支えて下さっているすべての方々への感謝の気持ちを持って、音色を磨き続けます。
<https://www.hirokamatsumoto.com/>

2013年度助成

谷垣 千沙

(声楽・ドイツ)

日に日にわんぱくになるかわいい息子。早いもので、産まれたばかりと思っていた彼も1歳の誕生日を迎えました。少しずつ演奏活動を再開してきましたが、思うように練習が出来なかったり、練習と生活のバランスをうまく取れなかったりと世の中のママさん達に脱帽するばかりです。世界に目を向けますと、あちこちで起きる戦争に胸を痛める日々でもあります。ドイツは様々な国籍、宗教の方々が暮らしているので、いろいろな面で敏感になります。戦争で被害に遭うのは、いつも罪のない民間人や幼い子供たち。そのような人たちは、あらゆる方法で守られなければならぬ。安全なところで暮らしている自らを考えると、罪悪感を覚えてしまいます。

こんな時、名もない音楽家は一体なにが出来るのでしょうか。せめて、明日のブラームスのドイツ・レクイエムVを精一杯歌いたいと思います。

佐藤 彦大

(ピアノ)

昨年はようやくコロナから解放され、ソロリサイタルやオーケストラとの共演等、演奏会も戻ってきました。ラフマニノフイヤーだったこともあり、同氏の協奏曲第2番やチェロ・ソナタを演奏できたことが大きな収穫でした。本年は、2月27日に東京文化会館(小)で自主リサイタルを開催予定です。それを皮切りに、さらに前進したいと思っております。

藤井 淳子

(チェロ・ベルリン在)

去年は、初めてドイツのオーケストラで首席として働かせていただいたこともあり大忙しの年でしたが、同時にものすごく沢山のことを学ぶことができ、とても収穫の大きい一年となりました。またこの度、1年間お世話になったアルテンブルク・ゲラ交響楽団を離れ、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の団員となりました。ゲヴァントハウスは、280年

あまりの歴史を持つドイツ国内最大規模のオーケストラで、度々日本公演も行っており、これからますます楽しみです。

2014年度助成

熊田アルベルト彩乃

(声楽・ウィーン在)

昨夏のウィーンは、コロナ前にもこんなに観光客がいたかしら?と思うほど人で溢れ、私も何度か参加した観光客向けのコンサートも、決して安くないチケットが連日完売していました。私はウィーンで溜めていたオペレッタのレパートリーなどで、秋に東京でコンサートを開催し、4年ぶりにまた日本で歌うことができました。ずっと会えていなかった日本の友人たちにも会え、日常が戻ってきたことに幸せを感じています。

浦山 瑠衣

(ピアノ・シカゴ在)

ポストン、ロサンゼルスに続き、昨年はシカゴに移住した。アメリカは実に大きい。個人の印象ではポストンは、知的で学びに最適、ネットワーキングもコンパクトな街。LAは、エンターテイメント要素も強く活動の幅が多彩。シカゴは、美術、スポーツ、歴史、自然、

多人種交流等あらゆる方向から音楽という芸術に触れることのできる街だ。

尾池 亜美

(ヴァイオリン)

コロナ禍が始まった2020年度より、母校である東京藝術大学の専任講師としての教員生活が始まりました。オンラインで初対面の学生と画面越しに自己紹介をし合った学部一年生が、たくましく成長し今年度で卒業します。自身の留学時代の時間の流れを常々思い出しながら、また時間の概念を更新しながら、時間芸術の質を高めべく研究を続けています。

2015年度助成

篠原 悠那

(ヴァイオリン)

23年8月、初開催の明治安田ヴィレッジ丸の内クラシックコンサートに出演させていただきました。明治安田生命ビルのアトリウムは響きも良く、沢山の方にお越しいただき、ありがとうございます。また2023年度第17回岩城宏之音楽賞を受賞し、9月にO.E.K.の皆様とコロンゴルドのヴァイオリン協奏曲を共演する機会をいただきました。オーケストラでゲストコン

サートマスターの経験をさせていただいたり、室内楽でも新しい作品を演奏する機会が多く、日々勉強の毎日です。挑戦する気持ちを忘れずに、ますます精進して参りたいと思います。

麻生 雄基

(テューバ・ドイツ在)

2023年10月に、念願叶ってライブツィヒにあるメンデルスゾーンハウスにて、リサイタルをさせていただきました。満席のお客様の笑顔を見て、辛いコロナ禍を経て日常がだんだんと戻ってきたことを実感し、幸せな気持ちになりました。この経験を糧に、2024年も様々なことにチャレンジしていく所存です。2024年が皆様にとって、健康で幸せ溢れる1年となりますように、心よりお祈りしています。

2016年度助成

川口 成彦

(フォルテピアノ)

10月5日に、ワルシャワの「第2回シヨパン国際ピリオド楽器コンクール」のオープニングコンサートにて、藤倉大さんのフォルテピアノのための新曲「Bridging Realms」の世界初演を行いました。公

演では、マルタ・アルゲリッチの緊急出演もあり盛り上がりしました。新作は、平和を祈る気持ちを私自身強く感じるもので、初演を多くの方と共有できたこと嬉しかったです。

上野 明子

(ヴァイオリン)

昨年2月に、デュッセルドルフ交響楽団のオーディションに合格し、第一ヴァイオリン奏者として入団しました。ドイツのオケに入るという目標が叶い、これからも果てしない数の作品を学んでいくのが楽しみです。春には、指揮のアダム・フィッシャー氏とのスパインツァーを控えています。今後も、オケ以外の活動にも取り組みながら、向上心を忘れずに精進して参りたいと思います。

2017年度助成

松原 みなみ

(声乐)

第91回日本音楽コンクールで1位を受賞してから、有難いことに演奏の機会を頂戴し、様々な場所や人々、音楽との新しい出会いがございました。その度に感じるのは、これまで経験し学んできたこ

と、支えてくださる人々が常に自身の音楽活動を助けてくれているということ。感謝の念を忘れずに、今後も邁進してまいります。

今田 篤

(ピアノ)

2020年年末にドイツから完全帰国して、早3年が経ちました。大変有難いことに東京藝術大学での教鞭に加え、ソロや室内楽での演奏の機会をいただくことができ、充実した日々を送っております。2024年には、東京でのソロリサイタルも予定しております。様々なことへの興味を持ちながら、自分自身の芸術性を深めて、人間としても演奏家としても成長していきたいと思っています。

坪井 夏美

(ヴァイオリン・ベルリン在)

2023年3月にカラヤンアカデミーへの留学を終え、帰国いたしました。最後の最後まで、ベルリンフィルでの演奏をはじめ、アカデミーコンサートでのソロ、室内楽、コンマスやトップでの演奏など大変貴重な機会に恵まれ、大充実の留学生活でした。帰国後は、東京フィルでの活動を中心としながら、ソロ、室内楽、他のオーケストラで

の客演などの活動も行っております。これからも活動の幅をさらに広げながら、精進してまいります。

中島 諒

(サクソフォン・パリ在)

私はパリで、元気に暮らしております。国際的な音楽家になって世界の方と心と音楽を共有したいという当時の夢は、少しずつですがそれに向かつていつているかな、と思います。当時は留学を始めたばかりの頃でした。本当に大変お世話になりました。

10月から11月にかけて、少し短い期間ですが3週間ほど日本に一時帰国しております。毎年、年に2回の日本でのリサイタル。そして今回は、台湾でのマスターレッスンと充実の期間を過ごしました。最近では歌手活動もしており、夏にはピアノの強化講習会に参加したりと、活動の幅を広げています。2024年は、さらに可能性を広げるといふことで、挑戦の年にしたいと思っています。

2018年度助成

高橋 維

(声乐)

2023年は、各地でコンサートや舞台に出演し、音楽

を通じてたくさんの方と出会い交流することができました。私の地元である新潟県で、リサイタルを開催できたこともとても嬉しかったです。また、国内外でのオーデイションを積極的に受け、挑戦の1年でもありました。自身の成長につながる新たな気付きを得ることができ、諦めずに挑戦を続けることの大切さをあらためて実感しています。

仁田原 祐

(ピアノ・ザルツブルク在)

オーストリア・ザルツブルクでの生活も、学生時代から数え9年目を迎えました。この小さな街とそれを囲む自然の美しさは、自らのインスピレーションの大きな源になっています。このような環境で生活できていることに感謝し、大学での教職、ヨーロッパ各地と日本で控える演奏活動に、全力で取り組んで参りたいと思います。

小林 吉成

(ヴァイオリン)

東京交響楽団のコンサートマスターとなり、3年目が始まりました。コロナや戦争等の演奏会開催に当たったの多くの懸念に配慮しながら、責任を持って音楽を再生に尽力する毎日。様々な形態の音楽を

身を持って体験することは、なんとかけがえのない物だろうと感じております。今後第一期一会を大切に、尽力したいと考えています。

岡本 誠司

(ヴァイオリン)

2023年は、ソリストからコンサートマスターまで様々、年間計75公演に出演させていただきました。ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団の定期演奏会でのブラームス協奏曲など、印象深い演奏会が沢山ありました。ベルリン・ハンス・アイスラー音楽大学でのアシスタント業も2年目になり、さらに多くの学びを得ていると感じております。



2019年度助成

山田 花織

(声楽・ミラノ在)

留学先であったイタリアという枠を超え、クルーズ客船内の劇場でのお仕事の機会に恵まれ、演奏活動をしながら世界を一周するという非常に貴重な体験をさせていただいております。パンデミック後

も、戦争など悲しいニュースが絶えない世の中ですが、音楽が少しでも人々の心の癒しとなるよう、一演奏家として精力的に活動を続けて参りたいと思います。

秋元 孝介

(ピアノ・ミュンヘン在)

昨年度より藝文大学院に復学し、演奏活動とともに博士号取得に向けての研究も再開しました。昨年は、葵トリオでは約30公演を行うほか、初めてマスタークラスを開催し、後進への指導という新たな活動も始めました。ソロにおいても、今年もコンチエルトや各地でのリサイタルを予定しているため、健康に気を付けながら邁進していきたいと思っております。

小川 恭子

(ヴァイオリン)

2023年夏、久々にコロナ規制無く渡欧し、スウェーデンの音楽祭に出演しました。日本人として、武満徹の作品も入れたプログラム、多くの拍手をいただき、とても嬉しかったです。現地の方との心温まる交流もあり、思い出深い旅でした。秋はコンチエルトから室内楽、無伴奏まで、初挑戦の曲も含め沢山の機会をいただきました。共

演者の方々からの学びも多く、理想の音楽家像がより明確になった有意義な時間でした。

田原 綾子

(ヴィオラ)

完全帰国から1年半、素敵な方々との室内楽だけでなく、全国各地でのリサイタルの機会も増え、沢山の方にヴィオラの音をお届けできることを嬉しく思っております。美術や人形劇など、他分野とのコラボレーションの機会にも恵まれており、ますます深く成長していきたいと思っております。これからも音楽と真摯に向き合って参ります。

2020年度助成

櫻井 愛子

(声楽)

昨年9月、ピアノトリオと声楽で編成された「AKIYAMA QUARTET」の第2回演奏会を行い、シヨスタコーヴィチの作品127など編成上の問題から普段あまり演奏されない歌曲に挑戦しました。昨年4月に、第34回国際古楽コンクール(山梨)にて最高位を受賞したのをきっかけに、今年古楽に積極的に取り組めます。

黒田 哲平

(ピアノ・デトモルト在)

日頃よりご支援をいただき、心より御礼申し上げます。コロナウイルスによる規制もすっかり緩和され、ドイツでの感染防止への意識の薄れに危機感も覚えますが、以前よりも活発にコンクールに参加したり、ヨーロッパ中の様々な都市で演奏出来ることを有難く思っております。本年がさらなる飛躍の年となるよう、より一層精進して参ります。

横山 瑠佳

(ピアノ)

昨年10月で、留学生生活3年目を迎えました。現在は、ミュンヘン音大のマイスター課程に在籍しております。この課程は、週2時間のレッスンのみとなつていきますので、残りの時間はコロナ禍でできなかったコンクールの参加、マスタークラスの受講に充てたいと考えています。残り少ない留学期間を心身共に充実した有意義な時間となるよう、積極的に活動したいと思っております。

荒井 優利奈

(ヴァイオリン・ウィーン在)

昨年は、コンサートなどで新しい土地に訪れる機会が多

くあり、素晴らしい音楽家との出会いは大変刺激的でした。その国・地域ごとに文化や習慣が違うのはもちろんのこと、数日の滞在でも音楽で人と人との繋がりがつくことを実感した、貴重な経験にもなりました。

音楽家として出来ることを模索しながら、これからの一年も新しい出会いや恵まれた環境に感謝の気持ちを忘れずに、頑張っていきたいと思えます。

2021年度助成

谷口 知聡

(ピアノ・パリ在)

フランスでの生活が早くも3年目を迎え、この留学のために大きく背中を押していたきました貴財団のお力添えに心より感謝しております。昨年は、有難いことに多くの機会に恵まれ、フランスとイタリア、東京で行われた音楽祭などで、ソロリサイタルをさせていただきました。本年は、まずスイスでリサイタルを控えています、演奏を続けられることに感謝を忘れず、等身大の自分を受け入れながらより一層精進してまいります。

阪田 知樹

(ピアノ・ハノーファー在)

長かったコロナ禍を経て、昨年は久しぶりにハンガリーでの演奏機会をいただきました。聴衆の方々は以前より増して熱狂的で、演奏している私自身が一番励まされたように感じるほどでした。

また、作曲活動については、編曲集第2弾、そして、作曲作品が出版となりました。これからの音楽への情熱を持ち続け、高みを目指し精進して参りたいと思います。

太田 糸音

(ピアノ・ベルリン在)

コロナ禍真っ只中から始まった留学生活はようやく生活も慣れていき、現在もベルリン芸術大学に在籍しています。ベルリンでも、演奏活動ができるといういなと願っていたところ、留学2年目にして、ドイツ・ベルリン交響楽団との共演が叶いました。また日本では、ベルリンフィルハーモニー管弦楽団奏者の方々と室内楽の予定もあり、一つの舞台を大切に邁進してまいります。

北田 千尋

(ヴァイオリン)

2年間のブリュッセルでの学生生活が終わりました。過

ぎてみるとあつという間でしたが、心に残る貴重な経験がたくさんできたこと、感謝の気持ちでいっぱいです。

また7月からは、広島交響楽団のコンサートマスターに就任することになりました。新たな挑戦、ますます気を引き締めて勉強してまいります。

2022年度助成

東方 理紗

(オルガン)

2年間のフライブルク音楽大学での課程を修了し、日本に帰国しました。この1年間には、演奏の機会を多くいただきました。演奏会やコンクールなどで遠征することが増え、沢山のオルガンや風土に触れることができました。これからの新しい方々や楽器などとの出会いを大切に、日々精進したいと思えます。

2023年度助成

後藤 駿也

(声楽・シュトゥットガルト在)

忙しくも充実したドイツ生活の中で、30歳を手前に自分の声とゆっくり向き合えることの幸せを日々感じていきます。大学の向かいには州立歌劇場があり、暇があれば足を

運んでオペラを観ています。最近では、ラーメン屋でアルバイトも始めました。毎週賄いでラーメンを食べているので、身体のサイズも順調に巨匠へと近づいています。

青島 周平

(ピアノ・パリ在)

パリは、以前の喧騒を取り戻し、活気に溢れる街に戻りました。学内では、フランス語での論文作成に頭を悩ませながらも、特定の視点から研究できる意義を感じています。今後は、論文に紐づく作品を勉強していくと共に、レパートリーを増やし、さまざまな国際コンクールに挑戦していきたいと考えています。

平野 友葵

(ヴァイオリン・ウイーン在)

レッスンでは、先生の美しく濃密な音色を近くで聴くことができ幸せです。また室内楽も受講しており、夏のリサイタルに向けてさまざまなた代の曲を勉強しています。先生はピアノリストで、ピアノ視点は貴重なアドバイスもいただけるため、新しい発見が多く本当に楽しいです。素晴らしい環境に身を置くことに感謝の気持ちでいっぱいです。

上野 通明

(チェロ・ワテロー在)

デュッセルドルフ音楽大学を経て、現在ベルギーのエリザベト王妃音楽院に在籍しています。ジュネーヴ国際コンクールで優勝し、お陰様で沢山の演奏のチャンスを得ただくこととなり、それぞれの経験が自分を大きく育ててくれている気がします。

今後は、CDも出させていただいたバッハ無伴奏組曲の全曲演奏会や、邦人の作曲家をテーマとした演奏会など新しい挑戦を続け、ますます精進してゆきたいと思えます。

吉川 隼介

(オーボエ・パリ在)

パリに到着してから約2ヶ月が経ちました。初めての海外、外国語で行われるレッスンや授業には、毎日新鮮な気持ちでとてもワクワクしながら生活しています。大変な難しいことに学校の奨学生にも選んでいただき、より一層胸が引き締まる想いでパリでの学生生活を送っています。これから控えている入試など、気を引き締めて頑張ります。



「海外音楽研修」「海外音楽コンクール」助成対象者一覧

(敬称略)

| 助成対象者 | | | | 助成対象者 | | | | 助成対象者 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|-----|------|-----|------------|-----|------|--------|------------|--------|-------|--------|------|--------|------|--------|------|--------|------|--------|------|--------|------|--------|------|--------|------|--------|------|--------|
| 氏名 | | 専攻 | | 氏名 | | 専攻 | | 氏名 | | 専攻 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1991年度 | | | | 1999年度(続き) | | | | 2011年度(続き) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 久住庄一郎 | 声楽 | 中野翔太 | ピアノ | 門間信樹 | 声楽 | 久妻日紫 | ピアノ | 坂本基里 | ピアノ | 江大澤聖子 | ヴァイオリン | 大澤聖子 | ヴァイオリン | 永井戸金 | ヴァイオリン | 黒川基寛 | ヴァイオリン | 千穂子 | ヴァイオリン | 植木久穂 | ヴァイオリン | 小松久穂 | ヴァイオリン | 末次大孝 | ヴァイオリン | 鈴木規子 | ヴァイオリン | | |
| 1992年度 | | | | 2000年度 | | | | 2012年度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 佐野成宏 | 声楽 | 宮部小牧 | 声楽 | 竹下裕美 | 声楽 | 横山直 | ヴァイオリン | 谷垣千沙 | 声楽 | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 藤井千 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 藤井千 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 藤井千 | ヴァイオリン |
| 1993年度 | | | | 2001年度 | | | | 2013年度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 横田みぎわ | 声楽 | 柳原由香 | 声楽 | 中佐高藤 | ピアノ | 田中直 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン |
| 1994年度 | | | | 2002年度 | | | | 2014年度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 樋口あゆ | ピアノ | 市原愛 | 声楽 | 鈴木高藤 | ピアノ | 田中直 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン |
| 1995年度 | | | | 2003年度 | | | | 2015年度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大井浩明 | ピアノ | 白木あ | 声楽 | 山崎高藤 | ピアノ | 田中直 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン |
| 1996年度 | | | | 2004年度 | | | | 2016年度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 小山麻穂 | 声楽 | 江田雅 | 声楽 | 山崎高藤 | ピアノ | 田中直 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン |
| 1997年度 | | | | 2005年度 | | | | 2017年度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 泉増大 | 声楽 | 白木あ | 声楽 | 山崎高藤 | ピアノ | 田中直 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン |
| 1998年度 | | | | 2006年度 | | | | 2018年度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 黒木香保 | 声楽 | 白木あ | 声楽 | 山崎高藤 | ピアノ | 田中直 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン |
| 1999年度 | | | | 2007年度 | | | | 2019年度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 田邊織 | 声楽 | 白木あ | 声楽 | 山崎高藤 | ピアノ | 田中直 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン |
| 2000年度 | | | | 2008年度 | | | | 2020年度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 小林大 | 声楽 | 白木あ | 声楽 | 山崎高藤 | ピアノ | 田中直 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン |
| 2001年度 | | | | 2009年度 | | | | 2021年度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 小林大 | 声楽 | 白木あ | 声楽 | 山崎高藤 | ピアノ | 田中直 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン |
| 2002年度 | | | | 2010年度 | | | | 2022年度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 小林大 | 声楽 | 白木あ | 声楽 | 山崎高藤 | ピアノ | 田中直 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン |
| 2003年度 | | | | 2011年度 | | | | 2023年度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 小林大 | 声楽 | 白木あ | 声楽 | 山崎高藤 | ピアノ | 田中直 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン | 佐藤野井 | ヴァイオリン |

(注) ・*は海外音楽コンクール助成対象者
 (同助成は2003年度以降廃止)
 ・(a)と(b)とは同名の別人
 ・○は1年間助成を2回助成決定